



手作り石鹸ブームに迫る！

不況下の今年になって心斎橋の南の端っこに、イギリスの石鹸ショップ「LUSH」の出店がありました。長堀・難波に続いて3店目です。こうして今や『石鹸ブーム』！！ケーキ！？と勘違いしそうな色鮮やかな大きな石鹸が積み、量り売りされています。薫りも華やかで小さいお店ながらいつも若い女性のお客さんを中心に賑わっています。

この石鹸ブームの先駆けとなっているのが「手作り石鹸」。手作りケーキを作る趣味感覚で主婦の間で5年くらい前から流行し始めたようです。そんな中、松前屋でも東京農大出身の男性社員が手作りを始め、子供のアトピー対策とかでちょっとした社内ブームに発展。綾部も指導を受けて、その魅力にはまり込んでしまいました！



手前のオレンジの石鹸が綾部の手作りです

さて、石鹸作りは基本的には苛性ソーダと油、精製水さえあれば出来ます。しかし、わざわざ手作りする人がそんな基本的な作り方だけで満足するわけない！ドブプリはまりこんだ綾部から言わせてもらいますと…

- 1、使う油を決める！（いつも何時間も悩んで決める一番大切な要素。特殊な油は通販でお取り寄せです！）
- 2、肌荒れに良いものを入れる（肌荒れにはアロエの粉、ヨモギの粉、殺菌作用もある蜂蜜など）
- 3、モチロン！昆布の粉入り（昆布のネバネバがきめ細かい泡を作ってくれます）
- 4、好きな薫りをつける（合成香料ではなくもちろん花などから取れる精油！薫りの飛びやすさも考えて配合したり…お風呂のリラックスを目的とするならぜったい外せない要素です）
- 5、好きな色をつける（合成着色料なんてものは使いません。油の色合いや香辛料で色をつけます）

アトピー対策とか、泡立ちスモーギーとかの目的と用途に応じてスペックを決めます。自分だけのためにタツプリと良いものを詰め込んで非売品を作る！ ああ、なんて幸せなんでしょう！ 仕込んでからじっくりと1ヶ月の間熟成を待たなければなりません、この待っている間…これも至福の時間の一つなんです。待つ待つ出来上がった石鹸を使えば、もう手作り石鹸から抜け出せません！

つまり、乾燥肌やアレルギーなど肌の悩みにあわせて無添加にしたり、肌に良いものを入れたり、好きな薫りをつけたりといった『自由度』と『自分だけ』があるから楽しいのでしょうか。だけど自分で作るのが面倒な人のために行き着いた業種が『LUSH』さん。賞味期限付き石鹸なんて、う～ん、なんだか食品の会社みたいですね…。

社内じゃないけど一番自慢！

先日、テレビの取材にも出演していただいた松前屋の商品開発顧問・中村新シェフは今年50歳。近い年齢の健康法師とはシェフ曰く「仲間」あるいは「同類」とのことです。とっても気が合うご様子…

いろいろな話に花が咲く中、頻繁に出てくるのは釣りに対する思い。和歌山・南部の出身のシェフはなんと5歳の頃から竿を握っているということで、もうかれこれ40年以上の釣り歴なのだそう。そんな大の釣り好き・中村シェフの一番自慢はコチラ！



魚の気持ち分かるNo.1

12年前、釣りのホームグラウンドである福井県小浜市でスズキ釣りをしていたとき、海から声が聞こえました。その日は朝から釣れず、やや集中力が切れかけたとき、海から「そろそろ行こかー」（何故か関西訛り）というざわざわした声が聞こえたのです。「え？誰がしゃべったんやろ？」と小首をかしげていると海に浮かぶ我がウキに強烈なアタリ！取り込んだのが50センチクラスのアネ（スズキの小振りなサイズ）。それから釣れるわ、釣れるわ、スズキ25匹、黒鯛7匹、メバル15匹。

その日から後、毎回意識を澄ませて魚の気持ちを読むことにしたら、何と毎回とても安定した釣果を得るようになっていきます。魚が近寄ってくれば賑やかな声が聞こえ、餌を多く撒く。そしたら釣れる。ざわめきがなくなれば釣れない。え？「そんなアホな？」ってですか？世の中には不思議なことが多いのです。信じる者は救われる！でも、銭儲けには使えません。